

27 千葉県臨床衛生検査技師会一般検査部門精度管理集計報告（定量検査）

○古谷公英（順天堂大学浦安病院）渡邊一博（国保松戸市立病院）久代真也（社会保険船橋中央病院）西周裕晃（公立長生病院）三谷智恵子（成田赤十字病院）森修治（川鉄千葉病院）安藤正（君津中央病院）

〔目的〕平成18年度一般検査部門の精度管理、尿定量検査の結果を集計し解析したので報告する。

〔方法〕定量検査は蛋白・糖の2項目を対象とし、試料は尿定性検査と同一のものを使用した。蛋白はHPLC法で、糖は常用標準物質を用いて検定した電極法によりそれぞれ目標値を設定した。

〔結果〕蛋白定量検査は79施設、糖定量検査は89施設の参加があった。①蛋白：試料AとBの標定値は、それぞれ88.1mg/dlと26.2mg/dlである。試料AではPR法の平均値は92.7mg/dl、CV4.6%、正確度5.2%、PV法の平均値は93.0mg/dl、CV4.6%、正確度5.6%、CBB法は80mg/dl、正確度-9.2%、比濁法は71mg/dl、正確度-19.4%であった。試料BではPR法の平均値は26.5mg/dl、CV13.5%、正確度1.0%、PV法の平均値は27.0mg/dl、CV5.2%、正確度3.1%、CBB法は25mg/dl、正確度-4.6%、比濁法は17mg/dl、正確度-35.1%であった。②糖：試料AとBの標定値は、それぞれ94.4mg/dlと534.5mg/dlである。試料Aでは電極法の平均値は94.0mg/dl、CV2.2%、正確度-0.5%、酵素法の平均値は95.0mg/dl、CV3.0%、正確度0.6%であった。試料Bでは電極法の平均値は524.5mg/dl、CV1.8%、正確度-1.9%、酵素法の平均値は528.3mg/dl、CV2.5%、正確度-1.2%であった。

〔結論〕蛋白定量では比濁法が正確度に欠けていた。糖定量では2法とも収束され正確度の高い方法であった。

047-353-3111

28 千葉県臨床衛生検査技師会一般検査部門精度管理集計報告（定性検査）

○古谷公英（順天堂大学浦安病院）渡邊一博（国保松戸市立病院）久代真也（社会保険船橋中央病院）西周裕晃（公立長生病院）三谷智恵子（成田赤十字病院）森修治（川鉄千葉病院）安藤正（君津中央病院）

〔目的〕平成18年度一般検査部門の精度管理、尿定性検査の結果を集計し解析したので報告する。

〔方法〕尿定性項目陰性プール尿に、目的物質を添加した凍結乾燥品AとBを試料とした。定性検査は蛋白・糖・潜血の3項目を対象とした。蛋白と糖の目標値は、定量法の標定値をもとに設定した。

〔結果〕蛋白、糖、潜血の定性検査は108施設の参加があった。

①蛋白：試料AとBの目標値は、それぞれ100mg/dlと30mg/dlである。試料Aで100mg/dlと回答した施設は104施設（96.3%）であった。試料Bで30mg/dlと回答した施設は85施設（78.7%）であった。

②糖：試料AとBの目標値は、それぞれ100mg/dlと500mg/dlである。試料Aで100mg/dlと回答した施設は99施設（91.7%）であった。試料Bで500mg/dlと回答した施設は90施設（83.3%）であった。

③潜血：試料Aでは0.06mg/dlと回答した施設が最も多く、58施設（53.7%）であった。試料Bでは0.15mg/dlと回答した施設が最も多く、41施設（38.0%）であった。

〔結論〕定性検査では、特に潜血検査において試薬メーカーごとの設定感度や判定値の表示形式が異なることによるバラツキが見られた。

047-353-3111